

平成 29 年度第 1 回教育振興審議会会議録

1 開催日時

平成 29 年 8 月 4 日（金） 午前 10 時 00 分～午後 0 時 5 分

2 開催場所

花巻市役所石鳥谷総合支所 3 階 大会議室

3 出席者

(1) 委員 12 名

藤原 忠雄 委員（富士大学 経済学部教授）
永井 伸逸 委員（花巻市教育振興運動推進協議会 会長）
佐藤 勤 委員（花巻市立大迫小学校 校長）
小原 昭徳 委員（花巻市立花巻中学校 校長）
久保田 武司 委員（花巻市 P T A 連合会 会長）
照井 義彦 委員（花巻市立幼稚園協議会 会長）
箱崎 陽介 委員（花巻青年会議所 理事長）
中村 浩希 委員（花巻市法人立保育所協議会 会長）
坂本 知彌 委員（花巻学童クラブ 主任指導員）
三井 信義 委員（社会福祉法人幸林会 理事長）
千葉 栄子 委員（公募委員）
瀬川 行夫 委員（公募委員）

(2) 事務局(教育委員会) 8 名

佐藤教育長、布臺教育部長、岩間教育企画課長、沼田小中学校課長、高橋こども課長、酒井文化財課長、佐々木教育企画課長補佐、大竹総務企画係長

4 議題

(1) 会長、副会長の選出

(2) 審議事項

- ・花巻市教育振興基本計画平成28年度主要事業の実施状況について
- ・花巻市教育基本計画実施計画について

(3) 報告事項

- ・小中学校児童生徒の見通し
- ・岩手県学習定着度状況調査結果（平成23年度～平成28年度）
- ・平成28年度 花巻市内問題行動概要
- ・平成28年度 不登校児童生徒の実態
- ・平成28年度 学校保健統計
- ・花巻市公立保育園再編実施状況

5 議事録

(1) 会長、副会長の選出

岩間教育企画課長 教育振興審議会条例の規定に基づき、会長、副会長の互選を願う。

永井伸逸委員 事務局で案はないか。

岩間教育企画課長 事務局としては、会長に富士大学経済学部の藤原教授、副会長に花巻北高等学校の下町校長をお願いしたいと考えている。

(「異議なし」の声あり)

岩間教育企画課長 異議なし。ということなので、会長を藤原教授、副会長を下町校長にそれぞれお願いいたします。拍手をもって承認とする。

(委員から拍手多数)

(2) 報告事項

・事務局より説明後質疑応答。内容は以下のとおり。

中村浩希委員 市内保育園・幼稚園の入園状況で公立の保育所が50数パーセントとなっており、充足率が高くない。定員を変更すれば充足率は上がると思うが、定員変更はできないものなのか。

高橋こども課長 定員変更は可能だが、そこは今後の推移を見ながらの対応となる。現時点では公立保育所再編の関係もあって定員の変更は考えていない。

中村浩希委員 充足率が低いとその保育園では、もう少し頑張ったと言われる可能性がある。なので定員を変更すれば充足率が上がっていいのではないかと単純に考えるが、そうはいかないものか。

高橋こども課長 公立保育園は、少子化や保育ニーズの変化によって、定員に満たない保育所がある。そういった状況に鑑み再編、民営化を進めている。その次はニーズも考慮して統合ということも進めていきたいと考えている。こうした中で保育園をどれだけ集約していくかということも含め、定員については、統合の状況も見ながら検討していくべきと考えている。

(3) 審議内容 これより藤原会長が進行。事務局より資料について説明後質疑応答。内容は以下のとおり。

(1) 花巻市教育振興基本計画平成28年度主要事業の実施状況について

中村浩希委員 幼稚園教育環境充実事業と保育所保育環境充実事業になにか差はあるのか。

高橋こども課長 幼稚園、保育所と分けているが共通するのは環境整備として計画的に施設の修繕を行っている。また、幼稚園教育環境充実事業では、サービス事業として預かり保育の事業費及び園児の世帯に対しての就園奨励金も含まれている。このように施設修繕だけではないため、決算額に差が生じるものである。

中村浩希委員 幼稚園で施設を建てたということはないのか。

高橋こども課長 建築は行っていない。この事業のハード分については施設修繕である。幼稚園入園児童の世帯への負担軽減もこの事業で行っている。一方、保育

所保育環境充実事業は施設修繕の事業費のみであるため、決算額に差が生じる。

中村浩希委員 それにしても差額が大きいが。

高橋こども課長 就園奨励金、保護者の負担軽減の補助金がほぼ1億円程度の決算額となるため、その部分が大きく見える。

藤原忠雄会長 学力向上推進事業について小学校に8名、中学校に3名のサポーターを配置しているとのことだが、どのような方々なのか。教員免許を持っていると思うが退職した教員ということか。また、特別支援事業のふれあい共育推進員の状況についても併せて伺う。

沼田小中学校課長 授業サポーター・中学サポーターについては、教員免許をもっている方に入っている。退職された教職員等である。そういう方々にチームティーチングとか、子供たちの宿題等のマル付けをしてもらっている。効果としては担任以外にも教えてもらえる人がいるので学習意欲があがった例がある。また教員にとっては教材研究等で相談できる人がいるということで、指導力向上の効果があるのではないかと感じている。

ふれあい共育推進員は小学校、中学校どちらにも配置されているが、教員免許は要件としていないが、中には免許を持っている人もいる。1日4時間から5時間の配置となっているが、特別な支援を要する児童生徒に寄り添って支援をしていただいている。

藤原忠雄会長 学校開放について、かなりの利用があるようだがこの要因について

沼田小中学校課長 1つの学校に3団体が入ると件数を3とカウントする。多くの利用をいただいているので、このような実績となる。

小原昭徳委員 文化財について、花巻市には多くの文化財があるが、それらの保護について限られた予算の中でどのように優先順位を決めているのか。

酒井文化財課長 文化財保護審議会でも委員の意見を伺い、進めているところである。

小原昭徳委員 その審議会に地域住民から文化財保護に関する意見や要望をすることはできるのか。

酒井文化財課長 文化財の価値や意義については、教育委員会でも把握しているが、これについて委員の専門的知見をいただいている。今回報告している中で具体的には伊藤家住宅は、花巻城が機能していたときから現存している武家屋敷である。盛岡藩領の中でも城跡にそうした武家屋敷が残っているのは貴重であることから取得したもの。

小原昭徳委員 そうした様々な文化財がある中で、現状はあまり注目されていない文化財について、保護や活用に関する意見・要望をするにはどこへ行けばよいか。なかなか意見・要望を言えない方もいると思うので、そうした声を吸い上げることについて。

酒井文化財課長 当課でも大迫の総合文化財センターでも構わないので、ご相談いただきたい。

中村浩希委員 先ほどの学校開放の件について、これはPTAや生徒に対する開放とい

うことか。

沼田小中学校課長 施設開放であり、スポーツ団体等が主に土日に校庭や体育館の使用をしているもの。

中村浩希委員 先ほども他の委員から発言があったが、かなりの利用があるようだが。
佐藤教育長 主に体育館と校庭を授業時間以外で利用していただいている。スポーツ少年団、ママさんバレーチーム等そういった方々が利用団体としての登録をしていただいた上で、申請により施設を貸し出している。休日は時間をずらして数団体が利用するので、回数がこれだけ多いということである。

坂本知彌委員 学童クラブの代表として、お願いがある。市内保育園、幼稚園、認定こども園の職員の合同研修に学童クラブも入れてほしい。保育園、幼稚園を卒園して就学すると同時に学童クラブに入ってくる子がいるので、この研修に加えていただけると学童クラブの支援員もより適切な保育ができると思うので。この幼保小との連携が学童クラブにとっても大きな課題となっている。ぜひ行政から呼びかけをいただきたい。

高橋こども課長 就学すると学童クラブを利用する世帯が増えている。その中で保育園、幼稚園と学童クラブあるいは小学校と学童クラブの連携が弱いという意見を別の機会にもいただいたところである。こういった形で連携できるのか内部で検討していきたいと考えている。この保幼一体研修に学童クラブの支援員の方々も加わってもらうことで連携の強化も図られると思うので、ご意見として参考にさせていただく。

久保田武司委員 授業力向上支援として、外部講師による模範授業・講義の実施とあるが、こういった講師を招聘し、どの学校で行われたのか。

沼田小中学校課長 県内外の著名な先生、例えば国立大学の付属小学校で活躍されている方をお招きした。昨年度は千葉大学付属小学校の先生であったり、岩手大学教育学部の先生をお願いした。かつては中学校で指導をされていた方である。こうした方々に実際に学校で子供たちに1時間授業をしていただいた。授業終了後に市内各校から出席した教員に対し講義・演習の形で授業の意図等や心がけていることとお話しいただいて、実践的な内容としている。参加した教員が翌日から取り入れることができるような研修、授業ということで行っている。

佐藤教育長 直接子供たちの学力を上げるということではなく、先生方の授業力を上げるために行っている事業である。優れた先生方をお呼びして市内の教員の授業力を上げようとするものである。

瀬川行夫委員 ある保育園長と話をした際に保護者の保育士体験について伺った。自分の子供だけでなく、ほかの子供も見ることによって視野が広がり非常にプラスであるとのことであった。しかし、ほかの園では園児が多く実施できないというところもあるようだ。保護者にいろいろな見方をしてもらえんということは、保育園・幼稚園だけではなく学校教育全体に対する見方も広げてもらえるのではないかと思うので、ぜひ未実施の園について

もできるだけ実施していただきたい。

中学校で赤ちゃんとのふれあい体験を行っている。こうした活動を行うことで少しでも少子化の歯止めにつながればと思う。しかし、大迫では赤ちゃんが少ない。赤ちゃんとのふれあい体験ができない状況である。そこで、他地域の大迫出身のお母さんをお願いして連れてきてもらったことがある。もし、地域内にいなければ生徒を他地域に連れて行ってでも体験させたいという思いがあるが、そういった際の補助等は配慮いただけるものか。

高橋こども課長 保護者の保育士体験については、市内の公立保育園ではすべての園で実施しており、法人立の保育園は任意実施となるが、すべての園に対して保護者に体験をしてほしいと働きかけは行っている。また、保護者の環境を知ってもらうため保護者以外にも保育士体験について周知している。例として学校の教員であるとか、保護者が仕事をしている企業にもこうした事業を理解していただくため、周知している。

中村浩希委員 保護者の保育士体験については、先ほど説明があったように法人立保育園では実施している園とそうでない園がある。私のところでは実施しているが、保護者が仕事を休めるときにはいつでも来ていいということにしており、保育を体験してもらっている。自分の子供が毎日どのように保育園で生活しているのかを見ていただいている。

また、保育園まで来てもらえれば0歳の乳児もいるので、ふれあうこともできる。今、乳児の母親たちが、どのように育児をしたらよいかと本を読んだりしながら、迷っているところがあるようだ。そうした中で一番役にたっていると感じているのは、保育園の看護師が子供の健康状態を見ながらご飯を食べさせるということもしているので、経験したければぜひいらしていただきたい。

沼田小中学校課長 赤ちゃんふれあい体験については、市の保健センターで実施しているので、ニーズがあるという貴重なご意見をいただいたことをお伝えしておく。

(2) 花巻市教育振興基本計画実施計画（平成28年度～平成32年度）（案）について

藤原忠雄会長 学力向上対策について、成果指標が平成32年度の目標値をすでに平成29年度時点で上回っている。たまたま単年度に高い実績が出たということなら分かるが、これは見ようによっては目標値を現状よりも下に設定しているように見えるがこの点について。

沼田小中学校課長 この実施計画は平成28年度から平成32年度を計画期間としており、計画を策定した時点ではこのような目標値を設定した。実施に実施期間に入ると当初の想定よりも高い実績がでたことから、このような状況となっている。現状を踏まえ目標設定についても考えいかなければならないと思っている。

佐藤 勤委員 大迫地域の小学校3校が集まって、体育やレクリエーション等全体で

活動する場面で連携し取り組んでいる。小学校間の連携になるが、小学校を卒業するとどの子も大迫中学校に入学することとなるので、中1ギャップの解消にもつながると思うので、今後もよろしくお願ひしたい。

また、個に応じた支援の充実について、ふれあい共育推進員を配置されているが、特別支援学級だけではなく普通学級においても個別に支援を要する子供が増えている。教育委員会からは柔軟に対応いただいている。今後もよろしくお願ひしたい。

三井信義委員

相模原市の障がい者施設での殺傷事件から1年が経過した。新聞等を見ても障がい者を取り巻く環境が悪化したと感じている人が増えているとのことである。そうした中で障害者差別解消法が昨年施行されており、合理的な配慮、あるいは特別な配慮が必要な方々に接する際に花巻市の職員規定もできたと聞いている。子供たちへの教育はもちろん、先生方に対して徹底して指導をしてほしい。

沼田小中学校課長 特別支援教育についての理解は年々高まっていると認識している。そうした中でも特別支援教育をさらに充実させていこうという思いから、今年度、各学校に特別支援コーディネーター（教員）がいるので、年度当初に研修会を実施している。それから、支援が必要な子供と通常学級との交流もしていこうということを進めている。実際、支援学級に在籍している子供は支援学級だけにいるわけではなく、いわゆる交流学級として1日の生活の中で通常学級の中に入りながら活動する場面もある。加えて特別支援学校、清風支援学校の生徒が自分の地域の学校に入って交流籍としてこうした受け入れを県と協力しながら行っている。

千葉栄子委員

小中学校連携推進事業と学校図書館支援事業の概要について説明願ひたい。

沼田小中学校課長 小中連携推進事業は、中1ギャップの解消と学力向上のために実践校を指定して取り組む事業である。具体的には桜台小学校と花巻北中学校を対象としている。小中合同の教員研修の実施や9年間を見通した教材の開発もやってほしいと思っている。さらに9年間を見通して家庭学習の手引きを作ってもらおうこととしている。小学校でやるべき内容と中学校でやるべき内容、これをバラバラにではなく系統性をもって家庭学習が行われるように手引きを作ってもらおうこととしている。

2つ目としては、教科指導や生徒指導で共通の実践テーマを作ってもらおう。

3つ目はいわゆる乗り入れ授業をしていただく、中学校の英語の教諭が小学校で5・6年生に授業を行う、小学校の教諭が中学校に行って教科担任の手伝いをする。そういった乗り入れ授業、あるいは課外活動でも交流ができるのではないかと。例えば陸上記録会の時期に中学校の教諭が小学校で指導を行うとか、あるいは水泳や吹奏楽とかそういった課外活動でも連携ができないかということで取り組んでいただいている。

学校図書館支援事業については、学校図書館の水準向上を目指して支

援員を小中学校課に1名配置し、各学校を巡回し学校図書館の運営の指導をしていただいている。支援員は退職した元学校長で実務経験も豊富で社会教育に関して非常に造詣の深い方であるので、実際の学校図書館の運営に関して具体的にアドバイスをしていただいている。また、図書ボランティアへの働きかけや研修会の運営もお願いしている。